

令和7年度第1回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日 時

令和7年6月20日（金） 午後3時27分から午後4時56分

2 場 所

青梅市役所 議会棟3階 第2委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫 委員
手塚 幸子 委員
本橋 大輔 委員

川合 純 委員
宇津木 順一 委員

清水 久員 委員
築地 夏美 委員

[出席青梅市職員]

大勢待市長以下9名

4 議事概要

(1) 市長あいさつ

移住定住や工業振興など、様々な分野で青梅をプッシュしていきたい

(2) 委員長あいさつ

次期委員会につながるご意見を率直にいただきたい

(3) 議題

- ・青梅市行財政改革推進委員会の取組について（報告）
- ・意見交換～今後の青梅市の行財政改革に必要な視点、論点、取組について～

(4) その他

- ・次回委員会は、令和7年7月29日の開催予定。

5 意見交換における主な意見等

【意見】 地域の行事に参加するお子さんとその家族がすごく減っている。人口減少のペースが早く、市内で生まれる赤ちゃんは年間500人ちょっとということで、十数年で半減していることに愕然とする。人口の奪い合いや人口を増やす施策でなく、現状において、まちを維持していく視点が必要であり、危機感をもって取り組む必要があると感じている。子育て支援だけでは持続可能な社会は維持できないと感じている。

【意見】 子育て施策は韓国等の海外でも成果に結びついていないようである。不登校の児童・生徒も増えていたり、大学も経営が困難で維持できないという状況である。外国人の流入が増えている自治体では、住民とのトラブルが起きている実態もあるようである。そういった視点を持つことも必要と考える。

【意見】 委員を務めていて、2点課題意識がある。一つには、青梅市は面積が広いため、必然的に地域格差がある中で、どう埋め合わせていくかである。これについてはデジタルがソリューションになり得る。また、青梅市単独ではなく、近隣市との連携により考えていくべき課題も多いと感じる。

【意見】 課題を検討する際に、青梅市でどのような取組が進んでいて、逆に何が進んでいないのかが、委員会としてわからないというところの難しさがある。

【意見】 これまでの委員会を振り返り、建設的な議論ができるようになってきたと思っている。一方で、委員会から市に提出した報告書の内容について、市で取り組んでいただいていると思うが、市の取組に反映されていることの実感がなく、分析していただきたい。

また、市長の諮問機関として、「この先2年はこれをやりたい！」ということに対して、行革委員会からセカンドオピニオンとして、何がしかの貢献ができたらと考える。これをやってくれと言われた方が委員会として取り組みやすい。

【市長】 良いと考える。分かりやすい例として、情報発信について議論していただいたので、発信の方法自体について具体的なアドバイスをいただけるといいかもしれない。フォロワー数をどう伸ばすかなどは、地域のPRや観光にもつながるので、そういった一点集中のテーマを扱っていただくことも面白いのではないと思う。

【意見】 最近市役所に来て知ったことだが、青梅市のふるさと納税の流出額がマイナス2億5千万円とのことであった。青梅市に入ってくるふるさと納税は5千万円程であり、そこを市内事業者の協力でPRして、プラスに転じられたらよいと考える。

また、市外の事業者にとっては、創業支援金であったり、手厚い施策があることから、青梅市は創業しやすい場所であると評価されている。このようなことが意外と市民に知られていないのではないかな。

【市長】 ふるさと納税は1兆円市場であり、今年度から取組を強化している。

【意見】 今期の委員会での意見交換はテーマが狭かったと感じる。もう少し広いテーマを扱うこととしても良いと考える。例えば、市民サービスの考え方として、モーターボート事業の収益についての効果的な使い方等の議論があってもよい。あるいは、復興特別税に置き換わって森林環境税が導入されたが、税収の観点での議論などがあってもよい。

【意見】 総じて住みよい青梅と評価している。学校施設、教育内容も良く、先生も一生懸命であり、安心して子育てができる。病院も立派に整備されて健康面も充実していることを市民も実感している。その中での課題は、お金をどう生み出すか。中心となる産業を育てたり、財政的な安心を生み出すことが大事であると感じている。

【意見】 教育は極めて大事であり、一層、青梅らしく、質の向上を目指す体制整備がされると良い。

【意見】 民生児童委員のなり手がいないという課題がある。民生委員制度は、100年以上歴史のある活動であるが、人が減っていたり、必要性の理解が進んでいない。私自身6年務めて学ぶことが多く、大変ためになる活動であった。自治会加入についても、な

かなかメリットが示せず広がらない。根本的に、何をどうしていけばいいのかを議論する必要がある。

【意見】 国勢調査員を引き受ける人も見つからない。調査員を引き受けることの負担が大きく感じられているのではないか。これは、調査自体のあり方も含め、他自治体と連携して、国に問いかけていくべきである。

【意見】 中学生が職場体験で保育園や小学校、コンビニなどを訪問している。市役所でも受け入れているようである。若いうちから地域の仕事に触れる活動はとても素敵だと感じた。

【質問】 民生委員の活動でご家庭を訪問する中で、不登校のこどもは多かったか。

【回答】 不登校で学校に行けない子は増えている。学校に行けても教室外で過ごすケースも多い。単に時代が変わったからということではなく、親御さんの負担もあり、不登校問題は、社会全体として考える課題と感じる。

【意見】 不登校は大きな課題。将来まで引きずって社会に馴染みづらくなってしまう。不登校が生まれないようにどうしたらいいかを真剣に考える必要がある。青梅市の実態は知らないが、都や国で非常に多いのではないか。実態をある程度オープンにして話し合っていくべきと感じる。

【意見】 全国で 40 万人超が不登校と言われている。学校の教育が役に立たないと考えて行かないケースもあるようである。

【意見】 コロナ禍で不登校が増え、小学校低学年の不登校が増えているようである。不登校の原因が分からないことが多く、適切な対応が難しい。非常に大きな課題である。

【意見】 フリースクール等への補助もあるようだが、手当としての支出が増えると財政的な問題になりかねないので、手を打つ必要がある。例えば、両親が活発に働いている姿を見せるなどといった対応が考えられるかもしれない。

【意見】 こどもからの SOS ミニレターに対する返事を書く活動をしている。不登校の理由は千差万別で、必要な対応も個別に異なる。学校に行けなくて苦しんでいる SOS を電話や手紙で受けている。サポートが必要な家庭のお子さんに対しては、アウトリーチ型で支援をしていく必要がある。手続き面でのサポートを学校 OB が取り組んだりしている動きもある。現役の先生では、なかなかそういったご家庭の中に入っていくことも難しい。

【意見】 様々な場面で効率性が求められているが、手間をかけることの価値もある。電子回覧板は便利な情報共有のツールではあるが、回覧板を手渡しすることによるメリットもある。市民運動会も、最近は当日参加型で事前準備のいらぬかたちに簡略化しているが、手間をかけることにより、人と人とを結びつけることにつながっている。そこを理解する必要がある。

【意見】 効率化により生み出した時間を、人の心を育てる部分に充てていく必要がある。例えば、AI が得意とする分野については AI を活用することで効率的に取組み、浮いた時間を教育に回すというような使い分けができれば良いと思う。

【意見】 在住外国人は今後も増えていく。日本語教育は、国語教育と第 2 外国語としての日

本語教育で違いがある。文法から順を追って身に着けるような学習から変化し、日本社会に早く参加できるような教育、日本語を使って社会貢献できるような教育が今後の主流と聞いている。行政やまちづくりに外国人が日本語で参画できるような取組は意外と自治体の役目なのではないかと考える。

【意見】 国際理解講座で日本語講座をやっているが、どこまで対応できているかはわからない。将来的な外国人の増加を見据えて、先手必勝で、在住外国人が青梅市に馴染めるように仲介する仕組みがあればよいと思う。

【意見】 外国人のリーダーを起用する方法もある。

【市長】 フットサルでペルー人やブラジル人チームとの関りがあり、スポーツの切り口でのコミュニティもある。

【意見】 行政が何をどこまで担うかについては、公助、共助、自助のバランスを考える必要がある。

【意見】 青梅市であらゆる取組を全て遂行するということは難しいので、西多摩地域で役割分担して質の高い取組を行うことも必要と考える。青梅市には病院があるが、近隣市でほかの要素を活用する連携があってもよい。

【意見】 羽村市のホールは市民と市民外で利用料を変えた。青梅市は中学生の吹奏楽を始め音楽が盛んであり、青梅市が今後整備する市民ホールは、安心して活用できるもの、活用できる仕組にしてほしいと思っている。

【意見】 博物館の更なる活用を進めるべきと感じている。「青梅学」の取組と連携して手厚くしてほしい。

【意見】 市民ホールや博物館については、近くにないと行きづらくなってしまう。

【意見】 財政的な面での手段を検討する必要がある。

【意見】 膨大な数に及ぶ条例を精査し、シンプルにすることも議論に含めるべき。

【意見】 子育て関係でもルールがどんどん変わって担当者でもフォローが難しいようである。プロが現場にいと良いと感じる。プロフェッショナルの人材育成をお願いしたい。

【意見】 専門家が行政に関わる必要があるのかもしれない。

【意見】 悪いサービスはやめていくという見せ方、やり方もあると考える。

【意見】 本委員会で取り組む活動の原点は行財政改革であり、課題を見つけて改革することである。その目的意識を持って、達成感を実感できる改革案をつくりたいと思う。

6 2年間の委員会活動に対する感想

【感想】 議論を押し付けるのではなく、メンバーに恵まれ、自由闊達に議論できたことに感謝している。

【感想】 委員会で議論した協働事業や施設予約についての改善を実感できて良かった。

【感想】 行政の取組を知る機会になった。青梅市のDXも進んでいると感じる。

【感想】 様々な意見を聞いて自分のためにもなった。今後の盛会を祈念する。

【感想】 大きなテーマについて意見を言うことのためらいもあったが、真剣に受け止めていただいた。また、市が努力されている点を理解した。

【感想】 普段の仕事では業務カットの方向性を重視しているが、市では効率化と市民サポートのバランスの難しい判断をされている。難しい局面で様々なことに取り組まれていると感じた。

【感想】 良くしたいという気持ちがあり、言いづらいことも言ってきたことはご勘弁いただきたい。この委員会での議論が行政にどう反映されているかが分かると、より深い議論ができる。私たちのやりがいにもつながるので、フィードバックしていただきたい。

以 上